

「女性に愛される男性 5 つのヒミツ」書き起こし

こんにちは。このはなさくやです。

わたしがマリッジカウンセラーとして仕事を始めて、10 年になろうとしています、うまくいくパートナーシップを築いていくためには、ご自分の潜在意識のパターンを振り返るという自分自身に働きかけることのほかに、やはりこれは関係性のことで、相手合っただけのことですので、男性と女性のツボの違いという感じ方や考え方の違いについて学んでおくことも、とても大切です。

基本的に男性と女性というのは求めているものが同じでも、それが与えられたときに受け取れるためのかたちが違うと理解しておいてください。

例えば同じ言葉を話しても、男性が受け取る意味と女性が受け取る意味は、全く逆のことすらあります。

ですので、パートナーに喜んでほしくて、あるいは異性の心をつかみたくて、一生懸命いろいろやってるんだけど、逆効果のことをしてしまったことってよくあると思うんですよ。

で、一生懸命やってるのにうまくいかないという問題を解消するために、先日、「男性に愛される女性 6 つのヒミツ」というお話をしたんですが、今日は。「女性に愛される男性 5 つのヒミツ」というテーマで、お話ししてみたいと思います。

では、女性に愛される男性 5 つのヒミツをお話していきましょう。

女性に愛される男性の、5 つのヒミツです。

【1 つ目のヒミツ】

まず 1 つ目です。

自分に興味を持ってくれる男性を女性は愛します。

これはどういうことかという、女性っていうのは質問されるのが好きなんですね。自分に興味を持ってくれると女性は弱いんです。

「この人、私のこと好きなのかしら？」と思っちゃうんですよ。

で、付き合い始めの頃は男性が、「どこに住んでるの？」とか「何県出身なの？」と

「趣味は何？」とか「どんな本読んでるの」とか、「兄弟は何人いるの」とか、
「小さい頃どんなふうに住ったの」とか、そんなふうに関心に向けて、
掘り掘り聞いてくるんですけども、
その状態を女性は非常に心地よく思うんですね。
「なんか私、この人に関心持たれちゃってる？」みたいな。

女性も男性に一目惚れはするんですが、女性の場合は、男性のルックスがいいから、
つまりイケメンだから一目惚れをするってということだけではなく、
まあ、もちろん外見で一目惚れすることが全くないとは言いませんけれど、こ
の素敵な男性が、あるいは素敵じゃなくてもですね（アハハ、ごめんなさい）、
「この男性、なんだか私にいっぱい質問してくるわ。」
「この人、私に興味を持っているみたい。」
「この人私のこと好きみたい。」っていう状態になったときに、
女性のハートはパカッと開きます。

まずはこれを覚えておいてください。

女性は質問されるのが好きです。
自分に興味を持ってもらうのが大好きです。

で、男性陣。

よく釣った魚には餌やらないって言いますが、これ笑い話じゃないですよ。
男性って、基本的に狩猟民族だからなのかもしれないですけど、捕まえるときは一生懸命
なんです。わかります？

捕まえるときは、「ああでもない、こうでもない」って関心持っていていろいろ聞いて
相手の女性をかまうんですけど、
まあ、プロファイリングでもしてるんでしょうかね。

まあ実にマメに女性に対していろいろ聞くんですね。

でも付き合い始めてからしばらくすると、特に二人が肉体関係を持ったあたりぐらいに、
この女性のことはもう全部わかった、と思い込んでしまうんでしょうね、
関心を失ってしまうんですよ。

で、男性にしてみれば、
「関心を失ったイコール愛情がなくなったということではないよ。」
と思うかもしれませんが、
女性っていうのは「関心を持ってもらえなくなったイコール、愛が冷めた」
って思ってしまうってガッカリしてしまうんですね。

こういうことを、よく聞きませんか？

「わたしの彼は、私が髪型を変えても、ちっとも気付いてくれない。」

とか、これは本当に女性としてはガッカリです。

日本はほぼ単一民族で、ほぼ全員が黒い髪の毛に黒い眼ですから、これはあまりいないんですけど、以前ヨーロッパの映画で見たような記憶があるんですけど、ワーカホリックの旦那さんが、家庭を顧みずに仕事ばかりしていて、奥さんが家出をしてしまって、警察に捜索願を出すときに、愕然とするんですよ。

身長は何フィートくらいだとか、太ってる痩せてるとか、あとは、髪の毛の色はブロンドだとか、茶色だとか、ブルネットとか、いろいろ書く欄があって、瞳の色っていうところで手が止まるんです。

「自分は妻の瞳の色を覚えていない．．．。」って。

ヨーロッパ人は、白人ですね、瞳の色、青、緑、ヘーゼル、茶色、灰色、ヴァイオレットといった具合で、いろいろあるんですよ。

「妻の瞳の色さえ忘れてしまった。
二人が出会った頃は彼女の瞳の美しさを何度も褒めたはずだったのに。」って。

女性にしてみれば、なんじゃこりゃあなことなんですけど、
こういうことすら起こってしまいます。

女性から愛される男性のヒミツ、1つめ。
「自分に興味を持ってくれる男性」です。

【2つ目のヒミツ】

女性から愛される男性、二つ目のヒミツです。

これは、「共感してくれる男性」です。

男性は、感情を感じるのがニガテですから、ちょっと耳が痛いかもしれないですね。

でも共感してくれる男性を、女性は好みます。

男性ってどうも勘違いしてるみたいで、年収が高いと好かれるんじゃないかとか、あと頭がいいとか、デキるオトコだと尊敬されるんじゃないかとか、いい車に乗っていると尊敬されるんじゃないかとか、セックスがうまいと女性は自分に虜になるんじゃないかとかね、まあ、とにかくいろいろ妄想するわけですよ。

どれもハズレです。

それらのことがまったく無意味とは言いませんが、女性にとっての男性の一番の魅力って

というのは、女性の気持ちに寄り添ってくれる、共感してくれる男性、自分の気持ちをわかってくれる男性っていうことが、実はこれ一番ポイントが高いんです。

別に浮気グセがあるわけでもないし、借金をかかえているしてるわけでもないし、ギャンブルをしてるわけでも、酒癖が悪いわけでもなく、ハッキリした問題らしい問題はなさそうなのに、女性から三行半を付けられる男性の場合はですね、男性自身が、なんで自分が女性から「別れましょう」って言われてるのか全くわかっていない場合が多いです。

で、この男性が女性から三行半を突きつけられた場合の8割が、この、「わたしの気持ちをちっともわかってくれない。」という女性の不満ゆえなんだってということがわかってません。

ただ、男性のほうにも言い分はあると思います。

男性ってというのは、感情を感じるのが怖いです。感情を感じるの苦手です。特に嫌な感情ですね。

例えば悲しさとか、みじめな感じとか泣くとか。

ネガティブな感情を感じることを、子どもの頃から禁止されてきてる人が多いんですよ。

「男の子は泣くんじゃない」って怒られたりとかね。

「メソメソするな」とか「クヨクヨするな」とか、「歯を食いしばれ」とかね。

女性は比較的、女の子だからっていう理由で、泣いても「女の子だからしょうがないや。」って大目に見てもらえたりすることが多いですから、泣いたり悲しんだりっていうネガティブな感情を感じることにしては、比較的抵抗はないです。

男性だって本当は女性の気持ちに共感してあげたいんですよ。

ただ、女性の気持ちに共感をしてあげると、自分にまでこのネガティブな感情が伝染しちゃうんじゃないとか、感情の蓋がパカッと開いて、コントロールが効かなくなるんじゃないかっていう、強い恐れを男性は感じてるんですね。

なので、感情の蓋が開きそうになると、その感情の蓋が開かないようにするために、「いや、その問題はね、こうこうこうやって解決すればいいじゃないか」と、左脳的にアドバイスをしようとしてしまったり、あるいは「これこれこうこう、こういうふうなことが問題なんだったら、もうそんな会社は辞めちゃえばいいじゃないか」って解決法を示そうとする。

女性からして見たら、

「別にどうすればいいかなんて聞いてないわよ。

私はただ、辛かったとか、頭きたとか、悲しかったっていうことを聞いてほしいだけなのに、なんであなたはそんなこともできないの？」

ってなっちゃうわけなんですけど、
男性の場合は気持ちに共感をしてしまうと、感情の渦に飲み込まれて、自分の感情の蓋がパカッと開いて、自分の中からこう、ネガティブな感情がどんどんどんどん引きずり出されそうで、本当に怖いんで、
それでそれを避けるために、
「じゃあ誰々部長に相談したらいいだろ」とか、
あるいは「なんで黙ってたんだ？そのときに社長に報告すればよかったじゃないか。」
って、解決法を指示してしまうんですよ。

そうすることで感情を感じることから、逃げようとしてしまいます。

で、解決法を示すことで、彼女が救われるっていうふうに、これ男性まじめに信じてます。
「メソメソメソメソしてたって、なんの解決にもならないじゃないか。」って。

まあ男性は解決思考です。問題解決思考です。

ですが、男性、ぶっちゃけ言いますけど、女性が問題を話してきても、
男性はアドバイスしたりとか解決をしようとしなくても大丈夫です。

で、女性っていうのは解決法をあれこれ指示されることではなく、
そのときの気持ちを聞いてもらって、感情的にスッキリすると、
女性はそこでパワーが戻ってくるんですよ。

女性には男性は意外かもしれませんが、女性っていうのはバカじゃないです。

彼女には自分の問題は自分で解決する知性と力があります。

ただ、彼女が自分の問題を解決する力を取り戻すためには、
あなたが彼女の話に耳を傾けてあげて、感情を受け止めてあげるっていう、
ワンクッションが必要なだけです。

で、男性はネガティブな感情を感じるのを怖るってさきほどわたし言いましたけども、
感情を感じて解放していくプロセスでは、
まず、ネガティブな感情から感じていくっていう順番があるんです。

感情って、地層みたいになってまして、いろんな感情の一番上、比較的、顕在意識に近い比較的浅い層にある感情が怒りなんですね。

で、怒りって、ある種、様々な感情をその下に秘めた、カバーみたいになってるところがあります。
ですから、怒りの下をよく見ていくと、その下に悲しみとか、失望感とか、痛みとか、
罪悪感とか、いろんなネガティブな感情が、何層にもなっていて、
そのいろんなネガティブな感情の層の下に更に潜っていったら初めて、
喜びとか幸せ感とか、安らぎ、豊かな感じとか、そういうポジティブな感情にたどりつけるんです。

ポジティブ、ポジティブってみなさんおっしゃいますが、
ポジティブな感情っていうのは、ネガティブな感情を、ちゃんとぐり抜けていかないと、
真のポジティブな感情は感じられません。
これは覚えておいてください。
で、話を元に戻しますけれど、
女性が問題を抱えてるときには、男性は基本的に解決してあげなくて大丈夫です。

これを言うと、男性の10人中9人までは、びっくりするんですよ。

「ええ、解決してあげなくていいの?」「アドバイスしてあげなくていいの?」

はい、解決してあげる必要はありません。
あなたが彼女の話に、そのまま耳を傾けてあげるっていうことをしてあげるだけで、
彼女は自分の中で落ち着きを取り戻して、落ち着きを取り戻したあとに、
彼女の知性が働き出して、彼女は自分できちんと解決の糸口を見つけ出す力を
取り戻します。
これは覚えておいてください。

でも女性のほうがですね、
「でも彼は私の話聞いてくれないのよ。」
「アドバイスいらないって言ってるのに、いつもね、私のやることなすことに、
いちいちアドバイスして解決しようとするのよね。
なんかそれやられちゃうと、私は自分の気持ちを感じることもさえ、
許されてないんじゃないか、否定されてるんじゃないかって、なんだか、惨めな気持ちに
なるのよね。」
女性はこんなふうに落ち込みます。

で、こういうときの女性の男性に対する援助の求め方のポイントなんですけれども、
男性がああしろこうしろって言うことは、これ彼ら、本当に、まったく悪気はないんで、
女性のほうが賢くなってください。

こういうときの方法をお伝えします。

「アドバイスはいらないの。」って言うと、男性もよかれと思ってしたことなので、
カチンときちゃいますから、
こういうときの賢い対応の方法は
「ありがとう。でもね、私の話に耳を傾けてくれるだけでいいの。
それだけで私、楽になるから。」
このように伝えることです。

ただ耳を傾けてほしい、話を聞いてほしいだけだと、
男性にとっては話を聞いて、なんのメリットがあるのかわからないので、
話を聞くだけで、まさかそれが彼女の助けになるっていうことが思い描けないので、
だから話を聞こうとしてくれないんですよ。

男性に「話聞いて」って言うだけじゃ無理です。

なので「話を聞いてくれるだけでいいの。そうしてもらおうと私は楽になるから」っていうふうに、ちゃんと「楽になるから」っていう「目的地」を伝えてあげてください。
で、男性っていうのは、基本的に女性の助けになりたいという意欲はありますから、
例えそれが、「ただ話に耳を傾ける」っていう、
今までやりつけなかった苦手なことであったとしても、
話に耳を傾けてあげるっていうことにチャレンジするだけで、あなたが楽になる、
あなたの助けになるっていうことであれば、
彼は苦手なことであっても一生懸命やろうと努力してくれるようになります。

男性というのは基本的に、女性に与えたい生き物ですから、
要はあなたのしてほしいことを彼がしてくれると、
あなたはこんなふうにハッピーになるのよっていうふうに、
してほしいことがあったら、それをしてくれるように言うだけではなくて、
それをしてくれたらどんな結果が得られるのか、それを伝えてあげてください。

これを伝えてあげることで、男性っていうのはとても協力的になります。

ここは女性のほうにも知恵が必要です。
女性の皆さん、知恵を働かせてください。

【3つ目のヒミツ】

次、女性から愛される男性、三つ目のヒミツです。

「自分の美しさを見つけてくれる男性」です。
美しさを見つけてくれる男性を女性は好きになります。

特に具体的に褒められるのが、女性は好きなんですね。

例えば、「笑ったときの左側のえくぼがかわいいよ」とか
「何かに打ち込んでるときの、君の瞳の輝きがセクシーだ」とか、
あとは「髪の毛がツヤツヤしていてきれいだ」とか、
「側によると、いい匂いがする」とか、なんでもいいんですよ。

体ばかり褒めてると、女性によっては「体目当てなの？この人」っていうふうに、
警戒する方もいますし、あるいは外見にコンプレックスを持ってる女性もいますので、
内面も一緒にちゃんと、
「こないだ一緒に出かけたときに、お年寄りに席を譲ってあげようとした、
君のああいう優しいところが、僕、たまらなく好きなんだ」っていうふうに、
外見だけではなくて、内面も褒めてあげると

「ああ、この人は私を理解してくれるんだ」
「本当の私を理解してくれるんだ」っていうことで、
女性は安心して、男性にハートを開くようになります。

先ほど外見にコンプレックスがある女性、結構多いですよって言いましたけど、
これは古今東西、人類全体が歴史的にくり返してる、これ観念なんでしょうけど、
女性の価値っていうのは美しさで決まる、女性というのは美しくあるべきみたいな、
女性は美しくてなんぼみたいなところがありますね。

かのマリリン・モンローでさえも、自分はブスだと思っていたようですね。
最近の人ですと、たとえば、ジェニファー・ロペスも自分はお尻が大きすぎると思っていた
ようですから、
女性っていうのは多かれ少なかれ、自分の外見にコンプレックスを持っています。

ですので、男性が具体的に、その女性のどういうところがかわいいのか、
どういうところがきれいなのか、どういうところが魅力的なのかっていうことを
きちんと伝えてあげることによって、
女性は最初のうちこそ「ええ、そんなことないわよ。」って言うかもしれませんが、
やっぱり嬉しいものです。

そして具体的に褒めてもらおうと、女性はもっとそのチャームポイントを生かそうと、努力
しはじめるようになるんですね。
これは本当のことです。

ですので、女性の美しさっていうのは、何も彼女は 20 代で若いから、お肌が若くてツヤ
ツヤピチピチしてるとか、そういうことではないんですね。

女性の美しさっていうのは男性次第です。
女性が美しくなるのは、パートナーである男性の手柄なんですね。

逆に「うちの母ちゃんは子どもを産んでからね、もうブヨブヨ太っちゃって」とか
「もう女として見れない」とか、そういうことを言う男性って、少なくないんですけど、
もしあなたの奥様や彼女が女性として魅力的でなくなったとしたら、
ハッキリ言います、それ、あなたの責任です。

これ、よくわかっておいてくださいね。

【4つ目のヒミツ】

はい次、女性から愛される男性、四つ目のヒミツです。

それは「ロマンティックな男性」です。

これは男性の皆さんに、私からのお願いなんですけれども、あなたの奥様を、お子さんのママとかお母ちゃんとしてじゃなくて、「恋人として」扱ってあげてほしいんです。
奥様をデートに連れ出してあげてください。

お子さんがいらっしゃるご夫婦でしたら、親御さんに預けるとか、ベビーシッターさんに頼むとか工夫をして、たまには2人きりの時間を取って、外食に連れ出してあげるとかね。とにかくいくつになってもデートはやめないでください。

女性というのは、男性から口説かれるのが好きです。
ですから、毎日毎日口説いてあげてください。

「そんなことできるかよ」って男性おっしゃるかもしれませんが、女性っていうのはとてもそれを好む生き物です。

で、ロマンチックっていうと、男性は何かこう、ホテルのスイートルーム借りなきゃいけないんじゃないかとか、ヨーロッパに旅行に連れて行ってあげなきゃいけないんじゃないかとか、フェラーリ買ってドライブに連れて行ってとか、おっきいホームランを打とうとするんですけど、女性の考えるロマンチックって、そんなおっきいものじゃないんですね。

女性がどんなときにロマンチックだなんて感じるかっていうと、すごい簡単なんです。

例えばスキンシップをしてあげるとかね。
例えばもうそれこそ、駅の構内のフラワーショップで、仕事帰りに、改札を出たときに、それこそバラ1本でもチューリップ1本でも、ちっちゃい鉢植えでもいいんです。

花を買って来てあげる。もう1,000円もしないもの、500円とかで買えるでしょ。
本当にささやかなものでいいですよ。

あとはそうですね、奥様が好きなケーキを買って来てあげるとかでもいいですよ。
ケーキって見た目がね、イチゴとか乗ってたりとか、きれいじゃないですか。

女性ってきれいでかわいらしいもの、美しいものが好きなんで、
そんな高いものじゃなくていいんで、それをプレゼントしてあげてください。

プレゼントの仕方なんですけど、誕生日や結婚記念日とか、あとはクリスマスとか、いわゆる記念日っていうか行事っていうか、そういう何かわかりやすいときでも、もちろんいいんですけども、一番いいのはなんの理由もない日に、なんの意味もなくプレゼントしてみてください。

これものすごく効きます。

花1本買ってあげる。

「どうしたの、あなた？」

「いや、これさ、見つけたんだけど、喜ぶと思って？」とかね。

あるいは100均って言ったら怒られちゃうかもしれませんが、たとえば髪の毛が長い奥様だったら、バレッタとか髪留めとか、なんかちょっとかわいらしいアクセサリーの付いてる、髪を留めるゴムとか、そういったものを買ってあげるのもいいかもしれません。

で、長年夫婦の会話がないとか、ぶっちゃけセックスレスのカップルとかいるでしょ。

そういう長年、旦那様のほうが釣った魚に餌をやらなかった状態が長いと、それをやってあげても最初は「どうしたの、あなたいきなり。熱でも出たの？」とか「気持ち悪い」とか「なんかやましいことでもあんの？」ってイヤミを言われたり、まあ、つれない反応をされることって多いと思うんですよ。

で、その女性から「気持ち悪い」ってこう反応を返ってきたときに、「ほらね、先生。うちの女房はあんな調子で、何をやってあげても喜ばないんですよ。うちの女房には無理なんですよ。」っていうふうに、私に訴えかけてくる、そういう男性のクライアントさんもいらっしゃいますが、私は言うんです。

1回や2回で成功するとは思うなと。

あなたが彼女と出会った頃、彼女をデートに誘って、僕と付き合ってほしいって彼女を口説いたとき、1回や2回で引っ込まなかったでしょ？

それぐらいの熱意を持っていただきたいんです。私が奥様や彼女を出会ったときのように、口説いてあげてくださいっていうのは、そういった意味があるんです。

で、釣った魚に餌をやらなかった期間の長さとか、あなたがサプライズでプレゼントをしたとしても、奥様が警戒心をとくまでにかかる時間の長さ、比例しますよ。

最初の頃「あんた、頭おかしくなったんじゃないの」とか、「浮気でもしたの」とか、「なんか怒られるようなことしたんでしょ」とか、嫌味が返ってきます。

これはもうしょうがない。税金の滞納分だと思って、甘んじて受け止めてください。

で、そのときの殺し文句はいいですか？メモしてくださいよ。

花1本を手渡して、

「いや、理由はないんだけどさ、オレらが付き合い始めた頃、花好きだって言ってたじゃん。」って、もう嘘でもいいからコレ言ってください。

「付き合い始めの頃、私そんなこと言ったかな」って、
はぐらかされるかもしれませんが、
彼女の心の中では、「わたしが忘れてしまっても、この人は覚えててくれたんだ。」
っていうところに感動します。
夫婦仲がうまくいっていないとか、もう隙間風吹いてるとか、
もうセックスレスになっちゃって、子どもも大きいし、
お互いをもう男女として見れてないっていうふうなカップルの場合は、
実は奥様のほうがもう諦めてるんですよ。

この人の心の中には私の住む場所はない。私の居場所がないって、諦めきってますから、
最初は嫌味も返ってきますけれども、
その旦那様から「付き合い始めた頃、2人で出かけたときに、この花買ってあげたら
喜んでたっろ？」って言われちゃったらもう大変ですよ。

「あ、私のことなんて、もうどうでもいいと思っていたのに、
この人はそんなささいなことも覚えていてくれたんだ。」
つまり「私はこの人にとって、今でも大切な存在なんだ」ってわかるんですね。

だから彼女は嬉しいんです。
で、お菓子でもね。「これ好きだったっろ」って伝えてあげる。
アクセサリーでも「これお前に似合いそうだなと思ったからさ。」
最初は、「何よこんなもの、安っぽい。」とか「センスの悪いもの買ってきて。」とか、
悪口言うかもしれませんよ。

でも、観察してください。例えばバレッタ買ってくるとするじゃないですか。

で、「何よ、こんなセンス悪いの。下品なピンク。中高生じゃあるまいし、
こんなのもっともなくって付けられるわけじゃないじゃない。」
って口では言います。

でも、観察してください。

同じマンションの奥様とか、ご近所の奥様と井戸端会議してるときにね（笑）、
絶対奥様はそのバレッタ付けてます。

で、近所の奥様から「何々さんそれ素敵じゃないの。このピンクの、かわいい」とか
言われて、
「買ったの?」「ううん、いや、私じゃなくてさ、うちのダンナが買ってきたのよね。
なんかこれさ、このピンクちょっとかわいくないよね。
この、なんかちっとも私の好みわかってなくて、センスないのよ、うちのダンナ〜。」
ってガーガー文句言ってるかもしれませんが、
口ではあなたのこと「センスない」とか、「こんな安物」って悪口言っても、
「あら、そんなことないわよ。誰々さんちのご主人、優しいじゃないの。
おたくんちラブラブね、うちなんかちっとも。羨ましいわあ。」とか、
こう言われて悪い気しないんですね。

で、「全くそんなことないのよ」とか言いながら、目尻下がってたりしますし、そういうことがくり返されると、奥様はその髪留め外さなくなりますから。

男性は女性のそういうところで、行動を見てあげてください。
【5つ目のヒミツ】

はい。で、最後になります。女性から愛される男性、ヒミツ、その5。

自分の気持ちを表現してくれる男性です。

男性っていうのは、尊敬されるのが好きでしょ。
ですから尊敬されると気分がいいんで、尊敬されたくて知識を話したがるんですよ。

で、知識をいろいろひけらかすっていう言い方はちょっと失礼な言い方かもしれませんが、知識をひけらかすことで、深い話ができたみたいな、そんな錯覚をする方いるんですけど、女性っていうのは、基本的に知識よりも、男性の「気持ち」を聞かないと、その男性を知ったっていう気持ちにならないんですね。

で、男性と女性のインターネットお見合いのサイト、あるじゃないですか。
マッチコムとかエキサイト婚とかヤフーパーソナルズとか。

で、プロフィールの、こういう男性と出会いたいとか、こういう女性と出会いたいとかいうところに、「深い話ができる人と出会いたいです。」って書いてる方多いんですけど、この深い話っていうのはですね、男性の言う深い話と、女性の言う深い話って、実は全く意味が違います。

で、先ほども言ったように、男性にとっての深い話っていうのは、知識に偏ること多いですね。

出来事の時系列だとか、どういう人が関わっていたかとか、歴史的な背景はとか、何がどう起こったか、起きた出来事について話したがるのが男性なんですね。

政治のこととか、歴史のこととか、経済のこととか、最近はやりの成功哲学で、誰がどう言ったとか、そういったことを話せるのが、男性にとっての深い話ができる人っていうことなんですね。

でも女性は全く違います。
女性はそういう知識のことをしゃべられればしゃべられるほど、その男性を「薄っぺら」って感じてしまうんですね。

本に書いてあるようなことしか話せない人っていうふうに、女性は判断してしまいます。

女性にとっての深い話っていうのは、
そのときあなたが何を感じてたかとか、どう感じたとか、

本一つ読むにしても、書いてあった内容うんぬんじゃなくて、
あなたがどのシーンでどういうところに、どんなふうに感動したか、
どんなふうに影響を受けたかっていう、あなた個人に起きたことや、
あなたの気持ちを話してもらったときに、
「ああ、深い話ができたわ」とか、
「この人は深いところまで話ができる人だわ」って思うんですね。

女性には心を与えてほしい。そう願う生き物なんです。
これ知っておいてください。

以上、五つのヒミツですね。

女性から愛される男性の五つのヒミツをお話してみました。

ではおさらいです。

一つ目、自分に興味を持ってくれる男性。
二つ目、共感してくれる男性。
三つ目、自分の美しさを見つけてくれる男性。
四つ目、ロマンティックな男性。
そして五つ目、自分の気持ちを表現してくれる男性。

この五つのヒミツでした。

男性の皆さん、意外だったでしょうか。で、女性ってめんどくさいとか、
女性って気分屋で、どうやって扱っていいかわかんないっておっしゃる方、
多いんですけども、
意外かもしれませんが、基本的に女性ってそんなに難しい生き物じゃないです。

女性って意外と単純です。

基本的に男性でも女性でも本質は同じものを求めているんですね。
男性も女性も愛を求めます。
愛したいし愛されたい、これは男女ともに一緒です。

ただ、本質は同じでも男性と女性とで、それぞれ求めるかたちが違うんですね。

要は、「ほしいのかい？じゃああげるよ」って与えられたときに、
それぞれが受け取れるかたちが違うっていうことを覚えておいてください。

私たちって子どもの頃から、
「自分のしてほしいことを、他人にもしてあげましょう。」とか、
「自分のしてほしくないことは、人にもしないようにしましょう。」
ってしつけをされてきましたが、

これは男女関係ではそのままズバリはあてはまらないかもしれません。

で、例えば何か困ったことが起こったときの対処法一つにしても違うんですね。

男性は何か問題を抱えてるときは、男性はそっとしておいてほしいんですね。
そっと見守ってもらって、解決するために一人になる時間を与えてほしい。
そっとしておいてほしいですよ、男性は。

で、逆に女性がそれやられると、見捨てられたって誤解します。
女性は問題を抱えてるときに、女性同士の会話を聞いているとわかると思うんですけど、
「何々ちゃん大丈夫？」って気づかう。
これが女性です。

で、ほかにもいろいろあるんですけど、とにかく男性と女性ではちがいます。

じゃあ異性間では自分のしてほしいことが、相手もしてほしいとは限らないって
言うんだったら、すれ違いが起こるじゃないかって、
ガッカリされる方もいると思うんですけど、抜け道があります。

相手のしてほしいことを知る、効果的な方法があります。
これはあなたの観察力にかかっているんですが、
相手があなたにしてくることを、注意深く観察してみてくださいということです。

例えば女性のほうが、あなたの体に触れてくる、あなたにう寄り添ってくるんだったら、
その女性は触れてほしいんですよ。

あるいは女性が、彼女があなたに対していろんなことを
「今日はどんな一日だった？仕事はどうだったの？お客様はどうだったの？
ああだったの？こうだったの？」って根掘り葉掘り聞いてくるときには、
男性であるあなた、「うん、こうこうこうでね」ってべらべらしゃべらないように（笑）

女性はあなたの話が聞きたいんじゃないくて、
彼女があなたに質問しているるように、
あなたのほうから彼女に対して、「今日はどうだったの」って聞いてほしいんですね。

で、よく奥様のほうが、旦那様に「私の話をちっとも聞いてくれない。」
って文句を言うときは、
あるいは「ちっとも話をしてくれない」って文句を言うときは、
男性のほうは「え、話してるじゃないか」っていうふうな反応をされる方多いんですよ

で、この場合の「ちっとも私と話をしてくれない」っていうときは、
「私の話を聞いてくれない。私に質問してくれない、今日は君はどうだったの、
今日はどういう1日だったの、私に関心を示してくれない。」
っていうことを言ってるんだと理解してください。

あと逆バージョンいきましようか。

例えば男性が女性に対してやたら褒めてくるとき、
この場合はその男性が褒めてほしいんだって女性は理解してください。
男性が褒めてくるからといって、女性はいろいろ自慢話をしてしまうのは NG です。
これ興ざめです。

私が尊敬してる心理学者に、男女関係の大家のジョン・グレイ博士っていう人がいまして、
彼の著書の中に『ベスト・パートナーになるために』っていう本がありまして、
英語の原題が『Men Are from Mars, Women Are from Venus』、
「男性は火星からやってきた、女性は金星からやってきた」なんですけど、
つまりこのように、男性と女性というのは、同じ人間という種族であっても、
全く違う生き物なんだっていうこと、
つまり、異星人、別々の星からやってきたんだぐらいに考えておくといいでしょう。

で、ここまで違いのある男性と女性ですけれども、
一番大切なものは、相手のことを知ろうという意欲なんですね。

で、もし相手がどうしてほしいのかわからないっていうときには、
頭の中でいろいろゴチャゴチャ考えるのではなくて、
ストレートに聞いてしまったほうが早いです。

「君、どうしてほしい？」、「あなた、どうしてほしい？」って聞いてください。

で、特に男性から女性に「君、どうしてほしい？」って聞いてあげてください。

最初のうちに女性は「ええっ、そんなことも言わないとわかんないの？」っていう
リアクションをする人もいるかもしれません。

で、「こうこうこうで」というふうに女性が言ったときに、
あなたが「こうかい？」って要約したときに、
「違うってば！」とかね、「じゃなくって！」って怒られるかもしれませんが、
「じゃあこうかい？それともああかい？」ってやっていくうちに、
段々、彼女が求めているものと、あなたが差し出すものがフィットしてくるようになります。

よく熟年のご夫婦でいうような、阿吽の呼吸っていうのは、
これは実は最初っからできあがるものではないんですよ。

2 人の間でいろいろなボタンのかけ違いや、すれ違い、けんか、ウチも激しいですけど
こうしたけんかですとか、すれ違いを繰り返しながら、
それでも諦めずに一緒にやっていくっていう、コミットメント。

それでも諦めずに、諦めずにお互いのことをもっと知り、もっと理解しようという意欲。

これを持って、相手に近付いていき、相手とつながることを諦めないっていう、

このコミットメントがとても大切です。

で、私はよく、私のところにいらっしゃるクライアントさんやセミナーの受講者さんにもお伝えしてるんですが、「愛ってというのは自然なものだから、ルールなんていないんじゃないか。」ってうそぶく人もいらっしゃいますけど、私はそうは思わないんです。

もちろん愛ってというのは、自然に確かに芽生えてくるものかもしれません。
植物みたいにね。自然に芽生えてくるかもしれません。

ただ、芽生えてくるところまでは自然に生えてくるものなのかもしれませんけども、それを美しく花開かせて、おいしい果実を実らせるためには、つまり、持続させるには、訓練が必要なんです。

お互いについて学ぶ必要があるんです。

ですから、あなたのパートナーってというのは、あなたの恋人であるとともに、人生って同じ時間を一緒に学び合う、クラスメイトだと思ってもいいかもしれません。

人生という学校の中で、机を並べて一緒に協力して成長していく、大切なベストフレンドと思ってもらったらいいでしょう。

以上で、長くなりましたけれども、私のレクチャー、終わりにしたいと思います。

長時間、ご清澄ありがとうございました。

(終了)

【付録】

昨年9月に出版しました iPhone/iPad 用電子書籍、
「こころを軽くして人間関係を改善する潜在意識活用術！」の原稿をプレゼントします。
ご笑納ください。

↓↓↓

<http://solar-lunar.sakura.ne.jp/repo/iphone1.pdf>